

473.3.0-1-2

900



中央滿蒙協會 歡迎會席上  
日本外交協會  
滿洲帝國國務院外務局長官 大橋忠一氏述 (要旨)

歐洲から  
觀た英吉利、獨逸、日本

(昭和十二年八月)

日本外交協會

29

對內閣發行之傳信雜件  
請遺存  
日本外交協會藏書



S 1.3.3.0-1 396 5318 0270

REEL No. A-0360



アジア歴史資料センター

お断り

本篇は先々月、歐洲から歸朝早々の大橋外務局長官を迎へて、其の腹藏無き感想を叩いた當時の談話要旨である。大橋氏は其の後滿洲國に歸任せられたるを以て、本要旨は其の査閲を請ふに由無く、己むを得ず當協會幹事の責任に於て此の複寫を作製したり、隨つて本篇は受贈者以外他見を謝絶せられたる、特に外人に對しては絶對瞥見を禁ぜらるゝやう御留意相成度。

昭和十二年八月

日本外交協會調査局

S 1.3.3.0-1

397  
5319

0271

目次

一	旅程及其の變更	一
二	大英帝國の弱點	二
三	英帝國航空會社の現状	三
四	英國空軍の強化	四
五	香港と新嘉坡	五
六	印度問題	六
七	南阿及其の他の植民地	七
八	英國の極東政策と對日態度	八
九	獨逸の強味は青年の元氣	九
一〇	獨逸の困難なる點	一〇
一一	獨逸の軍事的勢力	一一
一二	獨逸は歐洲の脅威	一二
一三	日獨防共協定	一三
一四	以上	一四

S 1.3.3.0-1 398 5320

歐洲から觀た英吉利・獨逸・日本

滿洲帝國國務院外務局長官 大橋忠一氏述

一 旅程及其の変更

今回、文字通りの飛脚旅行をして、最近歸朝した。實は當初の豫定は、ドイツの飛行船ヒンデンブルグ號でミュンヘンからニューヨークに飛び、サンフランシスコからチャイナ・クリップパーに乗って、アイリッピンまで歸る積りであったが、いろいろな事情の爲に早く歸北との命令に接したので、ロンドンから英國のインポリアル・エアウェイズの飛行機に乗ってラングーンまで飛び、ラングーンでオランダのK・L・Mの飛行機に乗替へてシンガポールに飛び、シ

0272

S 1.3.3.0-1

399 5321

ンガポールから香港・上海を経て、去る六月十四日に大連に着いた。その結果、私はゆくりなくも所謂大英帝國の勢力範圍を通過して、各種の印像や經驗を積んで来た次第である。

二 大英帝國の弱點

ロンドンに居って大英帝國を見ると、どうも山吹色のみが目に着いて、英國といふものを非常に高く評價する傾がある。なにしろ英國は海外に六百億以上の投資をし、その利潤を以て食つて居る。どここの國もロンドンを爲替オペレイションの中心にして居る關係上、如何にも大英帝國といふものの力に打たれる傾向がある。ロンドンに居って正倉銀行などから見ると、英國といふものは恐ろしい力があるやうな感じがするらしい。

400

S 1.3.3.0-1

5322

成程、今日の猛烈なる國際競争場裡に於て、金、並に益に依つて

贈ふところの物資或は武器彈藥等は、極めて貴重な物には違ひないが、併し、喧嘩になつて、命のやり取りをする戦争の場合に於て、武器彈藥や金銀物資が果してどれだけの力を持つてあろうか、勿論相當大きな力を持つには違ひないが、私は矢張り最も大切なものは人間の魂ではないかと思ふ。たとへば、弱き女でも、決死の覚悟で刺刀を振り上げた時の氣概は、双葉山が大砲を構へた形よりも、餘程凄味を感ずると思ふ。どんなに金や武器があつても、それを使ふ人間が命を惜しむといふやうなことで、本當の力は出るのでない。然るに大英帝國は、第一に、エドワード八世がシンファソン夫人との問題で退位した。ロンドンからサザンポルトンまでドライブした時に、私を案内して居つた英國人が、ウインザー宮の前で、此處が前皇座の問題を起された所だと、さも忌々しげに語したが、あの退位事件は、如何に英國の指導階級が一般に頹廢して居るかを如實に示し、英國の大なる弱味を暴露したものである。

401

0273

S 1.3.3.0-1

5323

第二に、英國の青年は、お金のやり取りや物資の高賣は宜いが、命のやり取りは御免だ。敵が假に英國の國土にやつて来ても戦争は御免だ。と思つて居る者。近頃では日本にも大分さう云ふ種類の人間があると聞く。が相當多く、現にオックスフォード大學の學生は、昨年さういふ決議をしたほどのことである。更に教會方面の者は非常な勢いで平和運動をやって居る。青年の氣風が一般に戦争を嫌つて居る。エチオピア事件に於て英國がイタリアからあの通りやられた原因は、必ずしも英國が武力的にイタリアに劣つて居たばかりではない。イタリアは、弱くても何でも、ムッソリニの命令一下、とにかく血を見る決心で奮躍して居る。然るに英國はそれが厭である。當時イタリアは七百キロの爆弾を搭載して四百三十キロの速力を出すところの重爆撃機約七百台を準備して、若し英國が愚問々々言へば、之で、ロンドンに勿論、ジブラルタルやマルタ等、全部やつつけてしまふぞと云ふ態勢を示した。之に對して英國は、エチオピアの

402

5324

S 1.3.3.0-1

る航空路、更にシンガポールから蘭領東印度を経てオーストラリアに至る航空路、この英帝國各部を結ぶところの最も重大なる航空路であるにも拘らず、この航空路の實情如何と見れば、甚だしきボロ飛行機を使用して居る。例へば私がカラチで乗換へたインディアントランス・コンティネンタル・エアウェイズ(インペリアル・エアウェイズの姉妹會社)の航空機の如きは、時速僅かに百七十キロであつて、日本の飛行機よりも遅い。しかもカラチからラングーンまではエンゲンのトラブルが三度あつた。それが爲に約一日遅れ、更にラングーンに於ては、ガソリンを積み過ぎてビルマヒンヤムの間の約六千尺の山を越えてパンコックまで行くことが出来ないから、私とオランダ人と二人乗って居った中の一人だけ降りてくれと云ふことになつた。そこで私は、その相客のオランダ人は、今度職を求めに行くのであつて此の機會を失つたならば一生棒に振るのぞと云ふことを前から聞いて居つたので、彼に譲つて飛行機を降りた。さ

S 1.3.3.0-1

5326

404

アレキサンドリアに大艦隊を集中して、アレキサンドリア最大のホテルを傷病兵收容所とし、今にも大戦端を聞くやうな格好を示して居つたが、いざと云ふ瞬間になつて、恥も外聞も名譽も打棄てて、グニヤリと閉口垂れてしまつた。如何に衰勢に向つたとは云へ、武力的には左程衰へざる大英帝國が、斯くの如き醜態を演じたのは、戦争を嫌ふ——命を惜む——と云ふ精神の頹廢が重要原因ではないかと思ふ。果して然らば、英國の弱味なるものは相嘗大きい。

三、英帝國航空會社の現状

第三に、英國のインペリアル・エアウェイズは、ロンドンヒアレキサンドリアを結び、アレキサンドリアからカイロを経てケイフトウンに向つてアフリカを縦断する航空路、及びアレキサンドリアからバグダット、カラチを経てビルマ、シンガポール、香港に達す

S 1.3.3.0-1

5325

0274

403

うして其の場に居ったインポリアル・エアウエイズのエイダエントの監督者及び英國人の飛行場長に何って、口を極めて罵詈雑言してや  
 った。「一体お前の國は何だ、この重要な航空路に斯う云ふボロ飛行機を用ひて、カラチから此處までの間にエンダンのトラナルが三  
 度もあり、其の上、此處で降された爲に俺は此の暑い所は一週間も居なければならぬ」と取鳴ったところ、飛行場長曰く「之は俺の責任ではない。飛行會社の責任だ」と、エイダエントの監督者曰く「飛行場が狭いからだ」。そこで飛行場長とエイダエント監督者の喧嘩になつて大醜態を演じた。其の時にエイダエントの者が私に「お前は實は一番悪い時に飛行機に乗つたのだ、第一に今はモンスーンだ。第二に来る十月から非常に良い飛行機を使ふが、飛行機が一番壊れ掛けの時にお前が乗つたのだ」と言つたから、ランダインで聞いてみると、さうではなくて、昔からの通りださうである。だからアメリカ人が英國の飛行機に乗ると「之では命が危ない」と言つ

て非常に立腹するさうである。兎に角ひどい状態である。その爲に、ヘーダからバタヴィアまで行くオランダの飛行機に押されてしまつて、餘程馬鹿者でなければ英國の飛行機などには乗らない。私は七人な事を知らず、各がインポリアルと謂ふので、最近シヨート・ブライズに命じて二十人乗のフライイング・ボートを二十機造つて、インポリアル・エアウエイズに就航させて、現在はアレキサンドリアまで来て居るし、更に五十人乗の飛行機を造つて今年の十二月かゝら使ふと言つて居るが、オランダの方では既に去る六月の十日から時速二百二十哩といふ更に優秀なる飛行機を使つて居り、インポリアル・エアウエイズがグラス・フオツカー級のものを使ひ始める時には、オランダの方には一層良いものが出来て、英國は又オランダに押されるがらう。

然らば、インポリアル・エアウエイズが何故さう云ふ醜態であるか  
 S 1.3.3.0-1 5328

S 1.3.3.0-1 405 5327 0275

その理由を考へてみるに、私の乗つた飛行機の操縦士は相當の爺さんで、既に十六年とか十七年やつて居るが、一年に千パウンド（邦貨一圓七千円強）の月給を取つて居り、更に上の者になると千四百パウンド（二萬圓千円）といふ巨額を取つて居る。成程これでは入件費がかさんでやりきれない譯で、オランダなどに敵はないのは當然である。併し兎に角この重要なる航空路を斯くの如き状態に置くことは間違つて居る。

四 英國空軍の強化

そこで英國はどう云ふ政策を執つて居るかと言へば、嘗つては、海軍が五、陸軍が二、空軍が一つの割合で費用を使つて居たのであるが、最近新に十五億パウンドの豫算に依る國防計画に於ては、陸海空共に三・三・三といふ同率の金を用ひ、その大部分を航空勢力

擴張に充てるらしい。之に依つて、私が通つて來たエチオピアのアブキールの空軍根據地も、エチオピアと勝手に攻守同盟を結んで、之をエチオピア運河附近に移すさうであり、其の他バグダッド・パレスターン・カラチ・カルカッタ等の空軍根據地を強化し、シンガポールにはあの小さな島に三個所も造つて居り、また香港は九龍附近に一個所あるが更に二個所造りつつある。更に英國は非常に大きな旅客機を造つて居るが、之は一旦緩急ある場合に爆弾を積んで一度に落ちて敵を畏縮せしめてしまふ目的らしい。つまり空軍に依つて英國の權益を擁護しようとして居る。

五 香港と新嘉坡

英國は勞銀の單價が高い為には小さな飛行機を澤山飛ばしては金が掛つて仕方がないから、大きく一度にやれと云ふ考かどうか知らな

S 1.3.3.0-1

408  
5330

S 1.3.3.0-1

407  
5329

0276

いが、皆傭兵であつて、とにかく空軍の擴張には人件費が非常に掛り、其の上、被等が住む所にしても、非常に贅澤な設備をしてやらなければ來る者がない。現に英國では兵士を募集しても應募する者が殆んど無いさうである。斯様に英國人が發澤になつてしまふと云ふことは英國の國防上の一大缺陷である。例へば香港の状態は、今もその守備隊を維持する爲に年額五百萬ドルを香港政廳から取上げて居るのであるが、それでも税金が相當高い。従つて若しも、もう少し香港の軍備を擴張して、香港政廳が少金を餘計に取上げをならぬ、貿易業者が立つて行けない。現に今でも香港を仲継ぎとせず、廣東なり厦門なりに直接貨物を持って行く爲に香港は非常な勢ひで衰微しつつある。即ち此方立てれば被方が立をぬと云ふ譯で、香港といふ一小地域の問題にしても、金の問題でダイレンマに陥つて居る状態である。

今回シンガポールに於て聞いとるところに依れば、最近、日本の貿易

S 1.3.3.0-1 5331.

0277

易商が非常な勢ひで發展して居る。三井、三菱等の商社がシンガポールから歐洲方面その他に行く非常に大きなパーセンテージをハンドゥルして居り、マレイ半島から出る大億何千萬のゴムの三割は日本の商社が扱ひ、錫は其の一割五分乃至二割を三井物産だけで管理して居る。斯う云ふ状態で日本が英國の貿易業者を著々壓迫して居るのは何故かと云へば、英國の商社のマネーゲヤ、其の他の待遇が日本人の倍以上であつて、人件費に喰はれて競争が出来ない。この点は英國に取つては非常な弱味である。

仕方がないから、恐るゝではあるが、國家の權力に依つて日本の貿易並にシツピングを妨害しようとする掛つて居る。即ち、英國が嘗て非常に自信を持つて居つた場合には自由貿易であつたが、最近は關税を高くして非常な保護貿易になつて居る。また従來英國が勝手にやらして居つた植民地には、クオート、システム、若しくは割當制度を採用させて日本の品物を防いで居る。最近シンガポールから印

410  
S 1.3.3.0-1 5332



度に行く航路を沿岸貿易ナリと稱して日本の為には通さぬと云ふ状態である。そこに英國の大きなもがきがある

六 印度問題

さう云ふ事をして國家の權力を以て自由なる貿易を防ぐは、結局物價が高くなるから土人は怒る。昔は土人が怒つても大したことはなかつたが、最近の土人の怒り方は非常に烈しい。英國は國防的には印度を常にフランスに使つて居つた。即ち南阿戦争に於てブリタイッシュ・インディアの兵隊を南阿に送つたのが、戦争に使つた最初の経験であり、更に歐洲大戦にも送つて居る。然るに最近、印度の國民運動は、ガンディの後継者と目されて居るところの（非常な雄辯家で、且つ過激な思想を持つた煽動家であると謂はれて居る）パండిット・ネールガ、印度・ビルマは勿論、シンガポールまで来

411

S 1.3.3.0-1 5333 0278

て排英運動をやつて居る。さうして印度のコンGRESSを提げて、總督を向ふに廻して英國に一泡吹かした。また最近ロンドンに開かれた英帝國會議の時には、印度の代表者は關口一番「今日の印度は昔の印度とは違ふ。大地の底から湧き出るところの國民的覺醒は非常なものだ」と言つて居る。而して印度は英國の寶庫と謂はれ、年々輸出超過の國であつて、印度全体にある金だけでも百億に及び、英國のパウンドが危なかつた時には印度から十五億パウンドの金を送つて助かつた。その寶庫が國防的には次第にマイナスになりつつある。印度の形勢危しと見て、現在印度に居る六萬の兵隊を十萬にする。それだけ印度から餘計に搾取する。餘計に搾取すれば印度人は餘計怒る。どうも印度問題は英國に取つて決して容易でないものになりつつある。

七 南阿及其の殖民地問題

412

S 1.3.3.0-1 5334

そのほか、南阿の現總理大臣のヘルツォークはボア戦争の時に  
 英國と戦つたところのボア系の者であつて、英本國から離れやうと  
 して居る。アイerlandの如きはインペリアル・コンファレンス  
 に代表者さへ出さない。英國に未だにくつ着いて居るのはオースト  
 リアだけである。英國の金持は現に七割の税金を納めて居るが、  
 更に六割の増税が加はつて、一俄國民は大變な負擔である。どうも  
 堪らぬから植民地も負擔してくれないかと云へば植民地は算盤が高  
 いから逃げるに決まつて居る。即ち植民地は次第に本國から離れつ  
 つある。結局英本國は尠大な國防豫算を自分一人で負擔しなけれ  
 ばならぬ。併しそれは財政的に非常な困難がある。其の他いろいろ  
 な弱点を持つて、今日の英國といふものは決して羨むべき状態では  
 ない。大英帝國といふものは既に昔のことであるといふ感じを受け  
 た。

S 1.3.3.0-1 413 5335 .0279

ハ 英國の極東政策と對日態度

然らば其の英國が現在極東に向つて如何なる政策を執らむとして  
 居るか。

第一に、英國は恰も歐洲に於てドイツとフランスを噛み合はせし  
 らやうに、極東では支那を強くして日本を牽制し、支那と日本を噛  
 合はせうとして居る。従つて英國が現在後押しをして居るのは蔣か  
 石であつて、日本ではない。現にロンドン市場に於ては日本の公債  
 よりも支那の公債の方が高い。日本公債の利率が一分だけ高いにも拘  
 らず、實際の市價は一割万安い。さうして英國人は、日本には必ら  
 ず變革が起ると云ふやうなことを宣傳して、日本に重きを置かず、  
 寧ろ支那に重きを置いて日本を牽制しようとして居る。然るに日  
 本人申すくの如きものと大いに手を握つてやらうと云ふ考を持つ人  
 があることと云ふことを聞いて、私は非常に驚いて居る。

S 1.3.3.0-1 414 5336

曰獨防共協定は疑もなく共産主義を目標としたる、即ちソグイエ  
 ット聯邦を目標にして出来たものであるが、シンガポールあたりは  
 居る日本の總領事は、自分等はあの曰獨防共協定は大英帝國に向つ  
 て出来たものと了解して居つて我々はニュー・レスペクトを要求す  
 べきだと偉い勢ひでやつて居る。然るに英國に頭を下げるのは誰か  
 ロンドンの真中に居つて、ロンドン・タイムスの読み、ロンド  
 ンの金融市場のみを見、英國人のハンドウルする山吹色のみを見て  
 居ると、さも英國は偉いやうに思へるが、その狭い範囲から離れて  
 英國を客觀的に大觀すれば如上の通りである。従つて將來香港ぐら  
 んは日本に譲つても英國としては別段問題でないのではあるまいか  
 私は、英國と事を構へようと言ふのではない。親英も宜いが、今日  
 の英國は如何なるものであるかと言ふことを、よく腹に納めた上の  
 親英でなければ非常に間違つて來ると思ふ。

第二に、英國は、日本が北にロシアをやつつけを後には、必ずホ

415

S 1.3.3.0-1 5337

0280

南下すると云ふことを我々以上によく知つて居る。恰も、ドイツが  
 フランス及び英國に向つて、我々はフランスや英國の方には決して行  
 かない、我々の行くのは東方だと云ふことを声を囁らして言つて居  
 るけれども——どんなにヒットラーが叫んでも、英國は之を信ぜ  
 ず、ドイツがロシアを片付けたら必ず西に向つて來るものと思つて  
 居り、さうして實際顧之上がつて居る。茲に於て英國は慌てふため  
 いて十五億ポンドの國防費算を発表したけれども、さてどうして其  
 の金を拵へるかと言ふことに苦勞して居る。従つて日本に對する關  
 係上英國はロシアと結ばなければならぬし、日本が抬頭すると云ふ  
 ことは彼等の最も厭なことである。何となれば、英國の利益と日本  
 の發展が最も衝突して居ると云ふことは、日本人以上に英國人は深  
 刻に考へて居る、と云ふのは彼等は着々と日本人にやられて居るか  
 りである。

前にも述べた如く私は歸途インピーリアル・エアウェイズの飛行

416

S 1.3.3.0-1 5338

機に乗ったが、實に不親切極まる。決して悔ふから何一つ教へてくれない。食卓でも私を一番悪い所に置く。また香港から英國船に乗つてみた。之は日本人を悪く扱ふと云ふ噂なので、どんな扱ひをするかと思つて乗つて見たのであるが、果して、私の室はボーイ部屋の隣であつて、その隣は一室が明けてあつて、全く隔離した形である。食堂に於ては長い食卓の一番端に私を置いて、此處でも隣の席が一つ明けてある。まるで私を汚いもの扱ひし、話し掛けやうとすると行つてしまふ。私は之を見た時に、憤慨するよりも寧ろ彼等を憐んじ、彼等は之程までに日本を嫌つて居る。我々を軽蔑することに依つて僅に其の鬱憤を晴らして居るのだと感じた。

従つて英國と結ぶとか結ばぬとか云つても、成程英國としては餘り日本を放つて置いてはいけなから、この辺でチエツクしようと思ふ程度のことば考へて居ようが、結んでも結ばなくても實際日本に好意を示すと云ふやうなことは絶対にあり得ない。それは英國の

417 0281  
S 1.3.3.0-1 5339

過去の歴史を調べれば直ちに判る。従つて、親英工作をやらうとする人々は、よくこの点を腹の中に收めて、今は斯う云ふ状態になつて居ると云ふことを知つた上にして貰ひたい。このことだけは明瞭に述べて置く。

九、獨逸の趣味は青年の元氣

次にドイツであるが、前に述べたる英國の大きな缺点と對照してドイツの趣味は青年の元氣である。私は五月一日ベルリンのオリンピック・スタジアムに於ける労働奉仕團とヒットラー青年團の大デモンストレーションを見て、思はず泣いてしまつたのであるが、隣席のドイツ人なども目頭を熱くして居つた。ヒットラーの熱辯に動かされて、青年が急所々々之に應へ、約十萬の青年がドイツ萬歳を唱へて解散する時の光景は非常な勢ひであつた。斯う云ふ光景

418  
S 1.3.3.0-1 5340

を見たら英國などで懐え上がるのも無理がないと感じた。  
今やドイツは男女青年合計七百數十萬を全部軍隊式にやって居る。ドイツ人に聞くと、「決して軍隊式に組織して居るのではない。青年訓練の爲にやって居るのだ」と辯解するが、實際は皆軍人同様である。

例へば、労働奉仕團は最近まで二十萬であつたのを今回三十萬に殖やし、十八歳以上二十五歳までの男は兵役に就く前に六箇月間必ず労働キャンプに行つて強制的に労働させられる。キャンプ場に行つて見ると、服装から生活様式から其の他總て軍人と全然違はない。悪い事をすれば直ちに菜圃に入れられるか酷き懲罰を受ける。朝は五時に起床して、十五分間柔軟體操をやり、朝食後、シヤベルを捲いで労働場に行き、六時間猛烈なる労働をさせられる。午後は入ホーツをやつたり、兵式訓練をやつたり、山野を跋涉したり、ヒツトラー、ピスマーク、フレデリック大王等の寫真を掲げを所でヒツ

トラーのマイン・カンフを教科書として學科をやる、即ち労働生活、精神訓練・教義の三つを兼ね備へて、極めて清貧な生活をして居る。彼等は綺麗な儀式用の服と汚い労働用の服を政府から支給され、行列の場合には儀式用の服を着て兵隊式の陣太鼓を叩いて行進する。この六箇月間訓練を受けた者はシヤベルを鐵砲に替へさせられ、立派な兵隊になる。六箇月間にドイツの青年の耳方が平均一貫目殖えるさうである。この労働奉仕を終へて軍隊に入つた者は、身體の特に虚弱な者は別として其の他の者は一般に何等の苦痛がないさうである。之は日本などに於ても相當考慮すべきことである。之等の者を何に働かせて居るか云へば、所謂四ヶ年計画に依つて、食糧の不足を補ふ爲に、低湿地を乾拓耕作して島を作つて居る。日本でもどん／＼海を埋立てて陸地を造り、其の他、道路橋梁等の土木工事の方面に青年を働かせれば、労働奉仕團の制度が出来ると思ふ。之を實施すれば、不具者は別として、日本は青鞞草がなくなり、殊に

420

S 1.3.3.0-1

5342

419

S 1.3.3.0-1

5341

0282

都會のインテリの爲に非常に宜いのではないかと感じた。  
ヒットラー青年團は、十四歳以上十八歳までの各學校生徒或は學  
校を卒業して働いて居る者を全部、日曜・土曜・水曜等に引張り出  
して之も精神訓練・兵式訓練・スホーリ等をやつて、軍隊化の準備  
である。

更に十歳から十四歳までの若はユーゲンド・ウエルクと稱する幼  
年團があつて、之も兵隊の真似である。

更に一層ひどいのは女である。女も最近、上の學校に行く者だけ  
は強制的に六個月間の労働奉仕をさせられる。田舎の百姓家に入ら  
れて、豚に餌をやつたり、穀物の刈入や、便所その他掃除を手  
傳はせられる。つまり男が戦線に出してしまつた後は、女が家庭の主  
婦として一切をやらなければならぬから、それを今から馴らして置  
く。其の他、繻帯を巻くことを教へる。之は看護婦の代用にする。  
更に手内職を教へる。之は亭主が死んだ時に女手一つで子供を養ふ

爲である。さうしてヒットラー・ユーゲンドに當る女のものもある。  
斯様に男も女も全部軍隊式の訓練をする。之がドイツでは少しも  
不思議はない。なぜ不思議でないかと云へば、ゾエルサイユ條約の  
屈辱はどうしても雪がなければならぬと云ふ此の簡單な心理は、日  
本が三國干渉當時の悲憤の念ぐらゐではない。全國民が此際ゼヒ祖  
國を救はなければならぬと云ふ信念に燃えて居る結果、非常な熱を  
以てやつて居る。この熱の續く限りはドイツは歐洲に於ける非常な  
脅威であると云ふことを痛感した。

しかも此の熱は、單に形而上に止まらず、ドイツ國防の形式的方  
面にも發展して、産業方面に於ても猛烈なる經濟統制を加へて居る  
が、この熱ある爲に色々な困難を着々克服して居るやうに見受けら  
れ、ドイツの經濟組織を普通の經濟取を以て見ることは甚だ危険であつ  
て、日本・アメリカ・英國等の組織とは全然違ふ。なぜ違ふかと云  
へば、金を中心とする經濟から離れて居る。即ち物價を決めてしま

422

S 1.3.3.0-1

5344

421

S 1.3.3.0-1

5343

0283

ひ、貿易を管理してしまひ、為替をライヒズ・バンクに集中してしまつて居る。従つてライヒズ・マルクの對外價值と對内價值は全然違つて居る。せりして國內に於てアウタルギヤをやつて紙幣をどんどん発行し、大きな豫算を作る。ドイツでは豫算を発表しないから今日どれだけの豫算を組んで居るか判らなうが、あちらに居る日本人の推測に依れば、少なくとも百二十億マルク、其中軍費が約六十億マルク、ライヒスマルクの購買力が日本の五十銭としても約三十億圓に當るところの程大なる軍費である。それだけの豫算を實行しても物價が一向上がらぬやうにドイツの經濟は既に組織されて居る。公債はドイツでも起すが、併しドイツの公債を起す目的は、日本あたりのやうに金を集める爲の公債とは異なり、民間に資金がたづついて居つては國民を養濟にするから、不必要な養濟を防ぐ爲の公債である。故に斯くの如きドイツの經濟を、英米や日本あたりの經濟眼に基いて、危なつかしいと云ふ批評を下すのは大に見

二五

管違ひであらう。私の見るところに依れば、ドイツの經濟は、前途に非常な困難は横はつてゐるけれども、併し最早相當程度に安定して居ると云へると思ふ。

二六

10. 獨逸の困難なる點

然らばドイツには如何なる困難があるか。一番大きな困難は原料の不足である。ドイツは石炭以外には何も出ぬ國である。アルサス・ローレンを持つて居る時には極めて良好の鐵礦があつたが、今は二八%とか三二%とか云ふ食鹽しかない。その食鹽は全ドイツの需要する鐵量の約三〇%に過ぎず、残りの七〇%は外國に仰いで居る。英國はドイツが鐵石を買ふのを防ぐ爲に色々な手段を講じて之を困難ならしめて居る。然るにドイツは現に年々十二百萬噸の鐵を製造して居り、ルールあたりの者は、鐵礦さへあればどんな物でも造る

424

S 1.3.3.0-1 5346

S 1.3.3.0-1 423 5345

0284

と言つて居る。さうして着々と研究して新軌軸を出してゐる。ドイツの學者に聞くと、鐵は我々に取つて大きな問題ではないと言つて居る。次に石油は、私は石炭液化工場を視るが、フイツシャー法とウーヂ法を用ひて盛んにやつて居り、來年の終りにはベンジンは大体自給の域に達する見込が着いたと言つて居る。ゴムは、石炭と石灰から製造することを發明して、私が歸朝する頃に關稅を十割上げたとところを見ると、愈々將來に於て自給自足の目途が着いたらしい。羊毛の如きもドイツに於ては二割以上人造羊毛の使用を強制して居る。砂糖すら石炭から造つて居る。とにかく彼等の勤勉努力と發明に依つて原料不足を著々と補つて居る。滿洲國から買ふ大豆は、マルガリン即ち兵隊などの食ふバターや、動物の飼料を採り、其の他ありゆる物に豆を利用して居る。また軍事上必要なニッケル、錫、クロム等は非常な勢ひで貯藏して居る。従つて齒磨のチニールなども、日本では多く棄ててしまふだらうが、ドイツでは女中が

S 1.3.3.0-1 425 5347 0285

皆持つて行く。釘一本でも棄てはしない。さうして新に科學的に發明する物はどんく發明して、昨年の八月一日から始めを四ヶ年計画に依つて、獨逸は數年間包圍を喰つても大丈夫なだけの用意を講じて居る。斯様にドイツ人は原料並に食糧の不足を感じて居るが、之をオーヴァークラムすべく非常な努力を捧げて居る。

二 獨逸の軍事的勢力

武力に付ては、どれだけの有るか明確なことは判らない。ドイツに於ては秘密は絶対に漏れないさうであるが、大約六十萬人の常備兵を持つて居る。

軍艦の如きも今どしく造つて居る。巨戦艦のみならず、最近は一三萬二千噸の大艦をも建造中である。潜水艦も最早三十隻ぐらゐ造つて居る。

426  
5348  
S 1.3.3.0-1



飛行機はヴェルサイユ條約の爲に十七年間も遅れたので、ドイツの軍用機其の着は相當遅れて居るが、併しベルリンには世界一の飛行機研究所がある。フランスに於ても年額八千萬フランの巨費を投じて中央研究所があり、ロシヤに於てもモスコウにツァヤがある。併しドイツ人は、ベルリンの中央飛行研究所を世界一と稱して居つて、大きな飛行場も附いて居れば、非常に大きな工場もある。さうして多數の若者を使って夜を日に次いでやつて居る。その爲にドイツの飛行機は益々発展して、ゲーリング空相は之を土臺にしてドルニエとかユンカー等の航空會社を鞭撻して、日に／＼新しいものを造つて居る。従つてドイツの飛行機は、先進國たるフランス等に比較して決して引けを取らぬと謂はれて居る。尤もフランスに於ても飛行研究熱は非常なものであつて、最近現はれたコテイ第二號などは、時速七百キロ、さうして七百キロの爆弾を積み二十センチの大砲を持つて居つて、追撃も戦闘も出来ると思ふオールマイテイの

元

S 1.3.3.0-1

427  
5349

0286

ものが出来て居るさうである。向ふに居る日本の飛行家なども「日本も性能の向上に努めなければならぬ。どんなにやつても性能が悪ければ駄目だ」と私に申して居つた。協會諸君の御盡力に依つて飛行機だけは立派なものをどし／＼造らなければならぬ。今良いからと云つても翌日は遅れてしまふ。現に私が行つた當時ドイツの旅客機は時速二百四十キロであつたが、十日ぐらゐ前はストックホルムからベルリンまで飛んだユンカーの最新式は三百六十キロ、更に四百二十乃至三十と進むのではないかと思はれるが、その目まぐるしい発達是非常なものである。東海の孤島に偏在して神風とか何とか言つて満足して居つてはならぬ。飛行機の研究は餘程厳制してやらなければいかぬ。餘談に亘つたが、ドイツは斯くの如くにして飛行機に於ても負けない。

また、あまり大きなものではないが、ドイツの高射砲は、スペインの戦線ですつた経験を依れば、約四萬フィートの有效距離があり

428

S 1.3.3.0-1

5350



を公然と書いて居る。まをベルリンで會つた私の友人も「ドイツの勃興は非常なものであつて、ドイツと英國と日本が能はなけれはならぬ」と言つて居つた。ロシアの如きは「ドイツなんかが生意氣を言へば鎧袖一觸だ」と口では強がりを出して居るが、内心は、マンネンベルグでやらねを痛みは今でも怖くて仕舞がない。今回の赤軍の大屠殺はスターリンの獨斷政策の失敗に依つて國內に弱味の出た結果であらうが、私はヒットラーがロシアの下層に向つて吐くところの毒氣に當てられを分解作用の一つではないかと思つて居る。チエッコの如きは可哀相なもので、慄え上がつて居る。之は現に私が外務省の者と交渉した時に経験した。或る者が「この次のオリソピックはロシアでやらうではないか」と提議すると、一人のドイツ人が「それは不可能だ。何となれば、オリソピックと云ふものは一國で二回續けてやることは出来ぬ」と言つた。(即ち獨逸はチエッコを自國の領土扱ひにして居る氣概だ)。

430

S 1.3.3.0-1 5352

斯様にドイツは、青年が霸氣を持つて居り、物質的方面もどんく發達して居つて、今や歐洲の脅威となつて居る。英國の如きはドイツを非常に恐れて居るが、敵はない。現に私が香港で兎を同地の新聞には、ブリー・メールのロザミア卿が「英國はドイツが怖いから植民地を還すの選さぬのと言つて居るが、歐洲戰爭の時に世界中掛つても勝てなかつたくらゐであるから、あまり生意氣なことをドイツに言つて居ると、今にドイツから怖い目に遭ふ」と云ふこと

439

S 1.3.3.0-1 5351

一、獨逸は歐洲の脅威

しかも必ず中る確信を持つて居る。最近ロシアで發明したところのタンクを射つ大砲の如きも相當優秀なものである。つまり歐洲はいつ爆發するか分らぬやうな噴火山上に居る爲に、武器彈藥の發達は素晴らしいものである。

0287

ドイツに取って宜いことは、ヒットラーが非常に用意周到な人である。之はナチのフューラー、ホリシチツカから来るけれども、中々慎重にやる。ラインランド出兵の時など、側から見ると、如何にも乱暴にやつをやうであるが、何處となく會議を開いて、大丈夫やれりと云ふ見極めを付けて、ノイラート及びプロムベルグが反對しなにも拘らず終に断乎として決行した。刑法の法典の如きは既に五年前から案が出来て居り、其の後三回程修正をやつたが未だに正式公布をしない。外交の如きも、一見不統一であつて、例へば、英國大使リツベントロツスはベルリンに外交事務所を持ってフォン・ラウマーが秘書をして居り、外務省はノイラートがちやんと外務大臣として控へて居り、党部の外交部長としてローゼンベルグが居つて三つに分れて居るやうであるが、ヒットラーは此の三方面の者は研究して、良い所は採つて、自分一人の判断に依りやるべき時には断乎としてやる。斯く彼が外交問題に付て如何に慎重であるかを物

431

S 1.3.3.0-1 5353

0288

語るものであつて、決して不統一ではない。ヒットラー即ちドイツであるから、ドイツに於ては不統一と云ふことは有り得ない。日本であんな風にやれば酷いであらうが、ドイツではヒットラーがしっかりして居るから、外交に携はる者が百あつても外交其の者は統一して行く。従つて、ヴェルサイユ條約の揺り返し過程に在る緊迫せる状態から云つて、ドイツは一度は必ず成功するだらうと云ふ印象

一三 日獨防共協定

私は歐洲に於ては日本の大公使の殆んど全部に會つたが、或る大使を除いて、殊に日獨防共協定に賛成して居り、之ほど外務省の在外使臣が一致したことは、私の記憶に於ては未だない。然るに唯東京に於てのみ、日獨防共協定に付て、議會とか厚君とか自由主義者がどうしたと云ふやうなことが新聞に出て、歐洲から見て居ると

432

S 1.3.3.0-1 5354

誠に奇怪なことであり、ドイツの方に甚だ面白からざる感情を持たしを憾みがある。私は彼等に伺つて「日本は今、永年習慣づけられたところの自由主義から國家主義に変わりつつある過程に於て、一時其の流、れに泡が立って居るのだ。そのうちに君等の期待するやうに左るから、せう心配するな」と言つて置いては、ドイツに於ては甚だ意外に感じて居るらしい。

諸君は何卒もう少しドイツを御研究願ひたい。と申すのは、英米から出る——英文で書かれた——ドイツに関する書物は大概インチキが多い。何故インチキが多いかと云へば、ドイツから逐はれたユダヤ人がヒットラーを憎むこと非非常なものであつて、例へばドイツ船がニューヨークに入ると頗る妨害する。そのドイツから逐はれたジューダ、ドイツの事ならはクル味増に言ふ。さう云ふ本の一例として、「インサイト・オヴ・ユーロプ」といふ本は、スターリンが神様でヒットラーを悪魔にして居る。よくも斯う嘘が書けるもの

0289

S 1.3.3.0-1 5355

だと思ふが、しかも此の本が世界に一番賣れて居る。諸君の内にも讀まれた方があると思ふ。現に河上何がしといふ名で著はされて居る本は、ドイツに関する限り「インサイト・オヴ・ユーロプ」から得た知識である。兎に角もう少しドイツを有りの儘に研究して貰ひたい。さうして暇と金のある人は實際にドイツに行つて研究をさせるが宜い。さうすれば曰獨防共協定は、徳富蘇峰先生が其の論文に書かれた通り、實に日本の外交の一大轉機であつて、將來少なくとも五十年間は日本の外交の樞軸となるところのものである。曰獨防共協定は北の方に向つても南の方に向つても非常に効果がある。効果があるものだけに其の片棒を擔ぐ日本の責任は非常に重い。

434

S 1.3.3.0-1 5356

は強い者を好きである。本當に好きなのは、歐洲戦争で裏切つたイ  
 タリーに非ずして、日本である。ヒットラーが日本を研究して居る  
 ことは非常者のものである。党部なども、古い時代に日本の武士がや  
 った事を其の儘やつて居る。即ち、「恥を知れ。若し辱しめを受け  
 たら決闘を申込み、男はペラ／＼喋るものではない、秘密が漏れ  
 るから。従順であれ。責任者は責任を負へ、失敗したからとて腹を  
 切つて済むものではない、孫子未代迄の責任だ。従つて其の責任者  
 がする事には、下の者は絶対に服従せよ」と云ふのである。即ち日  
 本の昔の武士道を其の儘やつて居る。然るに近年の日本人は、田舎  
 出の何も解らぬ代議士までが、總理大臣に向つて「おい系君」「加  
 藤君」と言ひ、一つ間違へば「馮慶野郎」呼ばはりすやうな有様だ。  
 日本では秩序や禮儀がなくなつた。ドイツでは秩序と禮儀は絶対の  
 ディシプリンである。ロシヤに於てすら紀律は非常に嚴格である。  
 日本の朝野が眞に國家の革新を期するならば、文武官民共に先づ紀

律を再興せよ。とすれば凡ゆる國難も又を迎へて解く事が出来るで  
 あらう。(一)

三八

0291

S 1.3.3.0-1

436

5358

S 1.3.3.0-1

5357

0290